

3 - 27 中伊豆における日別地震回数の推移

Change in Daily Frequency of Earthquakes at Nakaizu, Izu Peninsula

国立防災科学技術センター
National Research Center for Disaster Prevention

国立防災科学技術センターは、1976年末に中伊豆地殻活動観測施設（JIZ）を建設し、横坑内で微小地震および地殻傾斜の連続観測を行なっている。地震計設置地点は、 $\phi = 34^{\circ}54'46.4''$ ， $\lambda = 138^{\circ}59'48.4''$ ， $H = 263\text{m}$ で、すべてのデータは筑波の当センターへテレメーターされている。地動ノイズは10～30 μ kine 程度である。観測点の詳細は国立防災科学技術センター（1977）を参照されたい。

JIZにおける1977年4月～1979年4月の約2年間の日別地震回数の推移を第1図に示す。計数されている地震は、可視記録上で最大振幅2mm（107 μ kine）以上のものすべてである。地震頻発時には地震記録が重なって計数精度が悪くなるので、日別回数は最大100回までを図示するにとどめてある。破線は欠測時間が2時間以上あることを示す。

この観測期間の平常地震回数は1日当たり平均10回前後であるが、顕著な活動が3つ見られる：

- (1) 伊豆大島近海地震（1978年1月14日， $M = 7.0$ ）の前震・主震・余震系列
- (2) 1978年11月～12月の川奈崎沖の群発活動
- (3) 1979年3月の川奈崎沖の群発活動

これらのうち、(1)については浜田・他（1978）、国立防災科学技術センター（1978）の報告がある。また(2)については活動の概況を別途報告した（井元・他，1979；国立防災科学技術センター，1979）。(3)の活動は(2)とほぼ同じ場所で発生したが、活動規模は(2)よりも小さかった。第1図に図示した期間以後現在（6月25日）までの間には、5月下旬に(2)とほぼ同地域に小活動が起こったほかは顕著な微小地震活動は見られない。

（大竹政和）

参 考 文 献

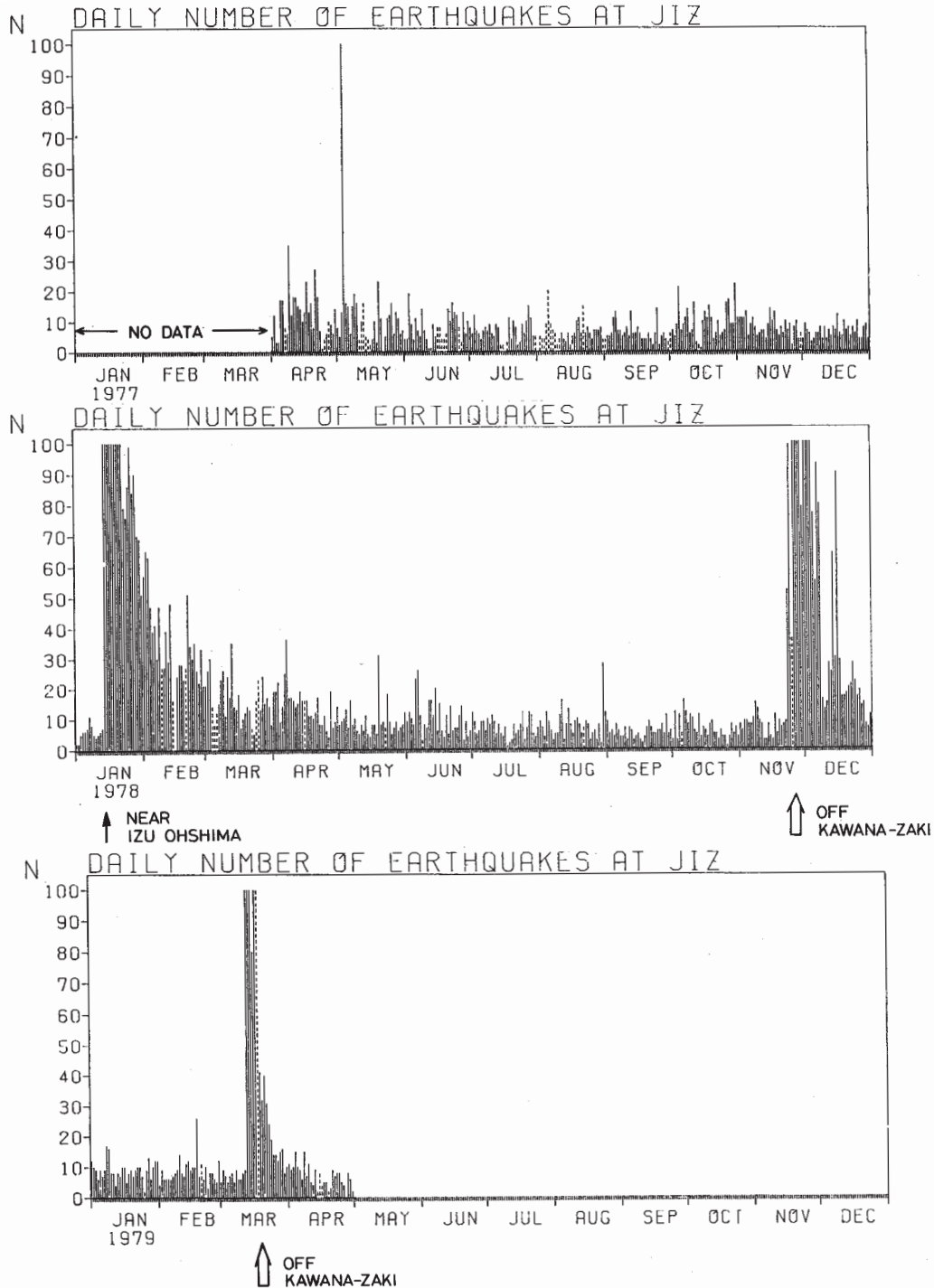
- 1) 浜田和郎・大竹政和・高橋末雄・鈴木宏芳・山水史生・佐藤春夫・井元政二郎・大久保正・立川真理子：伊豆大島近海地震活動と前震の m 値，地震学会講演予稿集，No. 1，（1978），49.
- 2) 井元政二郎・大竹政和・松村正三・笠原敬司・山水史生・大久保正・立川真理子・浜田和郎：伊豆半島川奈崎沖における群発地震活動について— 1978年11月23日～12月31日—

国立防災科学技術センター研究速報, 36 (1979), 14pp.

3) 国立防災科学技術センター:伊豆半島における微小地震観測, 連絡会報, 17 (1977), 48 - 50.

4) 国立防災科学技術センター:伊豆大島近海地震(78.1.14)の異常に小さい前震のm値, 連絡会報, 20 (1978), 53 - 55.

5) 国立防災科学技術センター:伊豆半島川奈崎沖における1978年11月~12月の群発地震活動, 連絡会報, 22 (1979), 133 - 135.



第1図 中伊豆(JIZ)における日別地震回数

Fig. 1 Daily frequency of earthquakes at Nakaizu (JIZ).